

## 7. マスタ

マスタにはオリジナルマスタと展開済みマスタの 2 種類が存在し、本アプリケーションでは展開済みマスタを使用する。そのためオリジナルマスタ⇒展開済みマスタへの展開作業が必要となる。

オリジナルマスタは基本的に CSV 形式(SJIS)で提供され、展開済みマスタはバイナリ形式で保存された固定長テキストファイルとする。

### 7.1. オリジナルマスタ

#### 7.1.1. オリジナルマスタ一覧

1~11 までは病名検索(disPack)で使用していたマスタであり、12~16 までは新規マスタ

ただし本アプリケーションでは、ユーザビリティ向上を目的として提供されているマスタをそのまま利用せずに独自に一部拡張する。

※背景がグレーのものは今回対象外または使用しないもの

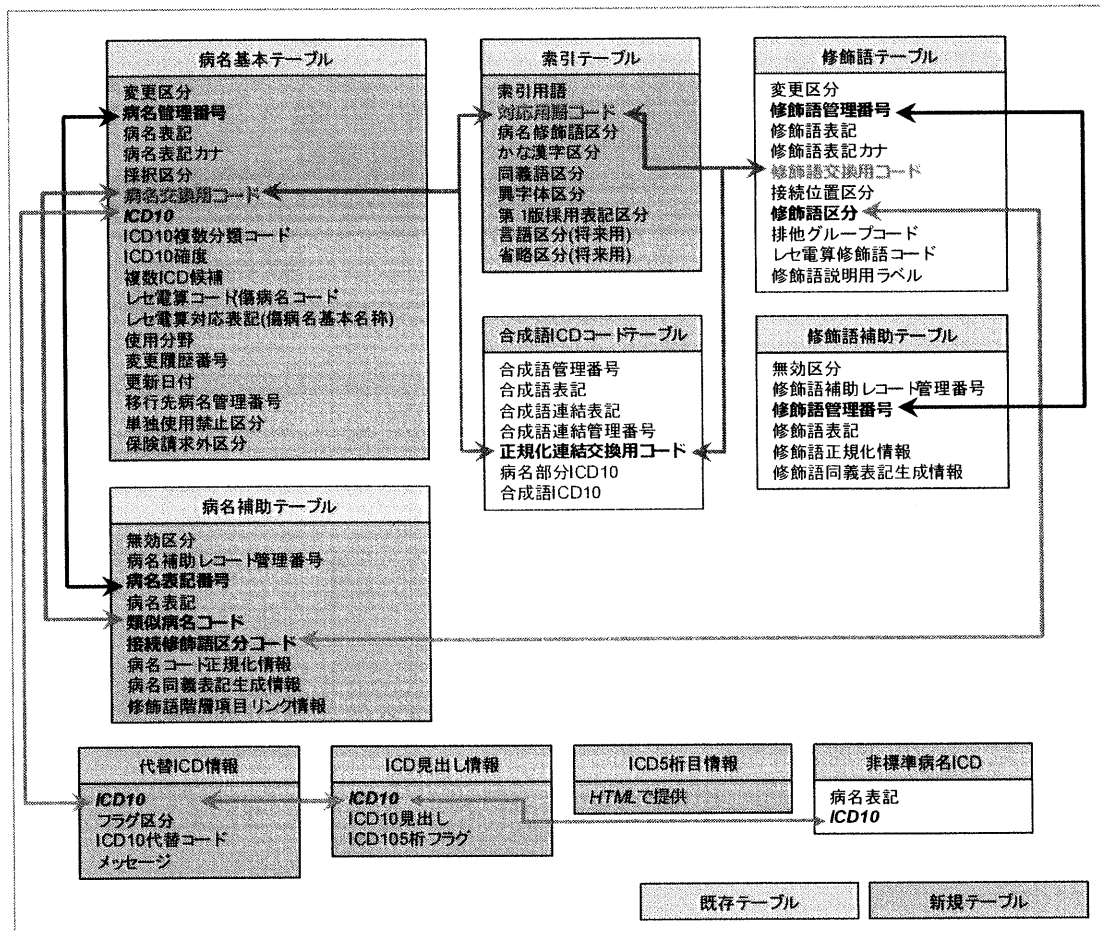
	使用	マスタ	展開対象	ICD10 詳細	傷病名検索	ICD10 支援				修飾語検索
						①	②	③	④	
1	○	病名基本テーブル	○	○	○	○	○	○		
2	○	病名補助テーブル	○		○					
3	×	病名階層項目テーブル								
4	×	病名階層関係テーブル								
5	○	修飾語テーブル	○							○
6	○	修飾語補助テーブル	○							○
7	×	修飾語階層項目テーブル								
8	×	修飾語階層関係テーブル								
9	×	修飾語区分ヘルテーブル								
10	○	索引テーブル	○		○					○
11	×	コーディング注意情報								
12	○	合成語 ICD コードテーブル	○	○	○				○	
13	○	代替 ICD 情報	○			○				
14	○	非標準病名 ICD テーブル		○	○					
15	○	ICD 見出し情報						○		
16	○	ICD5 桁目情報(ICD 見出し情報補助情報)						○		
17	○	ICD10-2013 見出し情報						○		
18	○	ICD10-2013 5 桁目情報(ICD 見出し情報補助情報)						○		
19	○	異体字辞書	○		○					○

### 7.1.2. オリジナルマスタから展開済みマスタへの展開時の拡張処理

以下のマスタを拡張する。

	拡張処理	対象マスタ	概要
1	同義語表記展開	病名補助テーブル 索引テーブル 修飾語補助テーブル	左記マスタに定義されている同義語を展開し、索引テーブルに追加する。
2	索引用語統一	病名基本テーブル 病名補助テーブル 索引テーブル◆ 修飾語テーブル 修飾語補助テーブル 合成語 ICD コードテーブル 非標準名 ICD テーブル◆	左記マスタに対して下記の変換処理を行う。 ①英数字半角⇒全角変換 ②ｶｯｶｯ半角⇒全角変換 ③ハイフン変換 ④異体字変換

### 7.1.3. オリジナルマスタ構成



7.1.4. オリジナルマスタ詳細

7.1.4.1 病名基本マスタ

財団法人医療情報システム開発センター作成の『ICD10対応電子カルテ用標準病名マスタVer2.53平成19年01月』より転記

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄有	新傷病名マスタとの対応有	説明
①	変更区分	1				レコード単位の更新状況を次の4つに分類しています。 0=前版と内容が同一の場合は"0"が入力されています(変更無し) 1=今版で削除が決まった場合は"1"が入力されています(削除) 3=今版で新たに追加された場合は"3"が入力されています(新規追加) 5=前版から内容が変更されている場合は"5"が入力されています(変更)  *本項目は②以下の情報の更新状況に関する情報を格納しています
②	病名管理番号	8			*	③「病名表記」に1対1で対応する一意の管理番号で、変わることはありません 更新情報の反映など、本テーブルのレコード管理のために使うものです いわゆる病態を管理する目的には⑥「病名交換用コード」が用意されています
③	病名表記	全角30文字	*		*	本マスターの「見出し語」漢字病名です 同一の「病名表記」は存在しません(注を参照) 今版では統合作業の結果、新傷病名マスターの「傷病名基本名称」と完全に一致しています なお異字体、かな漢字表記は「付録」に示すように統一し、それ以外は索引テーブルに収載してあります 注 本テーブルは削除となったレコードも物理的に削除せず、更新情報で対応しています。したがって表現の統一などによって削除されたレコードと正規表現のレコードとが混在することになります 削除分を含めた版では今後も考えられる現象です。ご注意ください。
④	病名表記カナ	全角50文字	*		*	③「病名表記」のカナ文字列です 今版では統合作業の結果、フィールド長の違いはありますが、新傷病名マスターの「傷病名カナ名称」と対応があります
⑤	採択区分	1			*	収載された③「病名表記」を、その「代表度」により次の3つに分類しています 1つの目安としてお使い下さい  1=その専門領域では比較的頻用されると判断した病名には"1"が入力されています(レベル1病名) 2=その専門領域でもレベル1ほどは頻用されないと判断した病名には"2"が入力されていますが、レベル1病名との区別に明確な基準はありません(レベル2病名) 3=レベル1,2の病名の同義語で互換使用してもよいと判断した病名には"3"が入力されています(互換表記)

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄有	新傷病名マスターとの対応有	説明
⑥	病名交換用コード	4			*	③「病名表記」が代表する病態情報を蓄積、交換するために作られた本マスターの「病名コード」です。 ⑤「採択区分」が「1」または「2」の「病名表記」に対して設定されています *採択区分が「3」の病名表記には、同義と判断された「病名表記」の「病名交換用コード」を利用するよう設定されています
⑦	ICD10	5	*	*	*	③「病名表記」に付与されたICDコードです *⑨「ICD10確度」がCxxのときには空欄です 具体的な例は下記⑨「ICD確度」をご覧ください
⑧	ICD10複数分類コード	5	*	*		③「病名表記」がICDの二重分類の対象、または補助分類などを用いてより具体的な情報をもたせることができる場合には、その第2コードが入力されています *二重分類の対象ではあっても適当なコードが無い場合には「X」(半角文字エックス)が入力されています
⑨	ICD10確度	3	*			⑦「ICD10」の確かさを表す区分で、次の4つに分類しています  D=内容例示やICDの第3巻に明示された病名、または明らかにそれらと同義の病名には「D」が入力されています  S=③「病名表記」の情報だけではICDの分類上、または臨床上の疑義があっても必ずしも確実に正しいとはされない病名には「S」が入力されています  T=厚生労働省からのご確認が「仮確認」に留まっている病名には「T」が入力されています。 *ver.2.2以降、新規追加分のICDはすべて厚生労働省の関係部署にご確認いただき、公開して公開しています。確度「T」はICD2003年版への移行時からの設定で、公開時に確認作業が終了していない場合に入力されています。この区分のついた⑦ICDは今後確定時に変更される可能性があります。  Cxx=③「病名表記」の情報だけでICDコードを選ぶことができない病名には、「C」で始まる3桁のコードが入力されています(複数ICD条件コード) 「S」のデータとの違いは、ICDの第3巻でも優先順位が付けられていない点です *Cxxは、システムで⑩「複数ICD候補」からコードを自動的に選び出せるかどうかを主眼に分類したコードです。 具体的にはCxx_tblの内容をご覧ください

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄有	新傷病名マスターとの対応有	説明
⑩	複数ICD候補	150	*	*		<p>⑨「ICD確度」によって次のように入力されています</p> <p>③「ICD確度」が“D”の場合 この項目は空欄です</p> <p>⑨「ICD確度」が“S”、“T”の場合 原則的にはICDの分類規則上優先順位が高いコードを⑦「ICD10」に入力してあり、特に候補として挙げるべきICDコードがある場合⑩「複数ICD候補」に“;”(半角セミコロン)で区切って入力してあります なおこの場合には、他の候補が無い場合でも、⑦「ICD10」コードが単独で入力されています(システムを作る上での配慮です) ③「病名表記」複数分類の候補で、さらにその組み合わせが複数ある場合には 第1ICDコード+第2ICDコード を、“;”(半角セミコロン)で区切って入力してあります</p> <p>⑨「ICD確度」が“Cxx”の場合 可能性のある複数のICDコードが、それぞれそのコードが選ばれる条件とともに、“;”(半角セミコロン)で区切って入力されています 例③「病名表記」“不妊症”は患者の性別によってICDコードが変わります この場合は ⑨「ICD確度」にC10 本欄に 女性=N979;男性=N46 が入力されています</p>
⑪	レセ電算コード	33	*	*	*	<p>③「病名表記」に対応する「新傷病名マスターの傷病名コード」が入力されています 「新傷病名マスターの傷病名コード」自体は7桁の固定長コードですが、複数の修飾語の連結を想定して33桁の可変長としています。 今版では統合作業の結果、全ての③「病名表記」に7桁の「傷病名コード」が付与されています</p>
⑫	レセ電算対応表記	全半角混在 30文字	*	*	*	<p>⑪「レセ電算コード」で表現される「新傷病名マスターの傷病名基本名称」を入力してあります 今版では統合作業の結果、全ての③「病名表記」と完全一致しています</p>

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄有	新傷病名マスターとの対応有	説明
⑬	使用分野	1				<p>③「病名表記」を主として用いる分野を識別するための区分コードです。</p> <p>主として歯科分野で用いられることを想定している③「病名表記」には"4"、それ以外には"1"が入力されています。今後、歯科分野"4"以外にも追加される可能性があります。</p> <p>なおこの情報は1つの目安に過ぎません。例えば⑬「使用分野」が"4"の③「病名表記」が、医科のレポートに記載できないわけではありません。</p> <p>1=下記以外のもの 4=主として歯科分野で使用されることを想定しているもの</p> <p>注) Ver2.32まではこの項目は「レセ電算対応確度(1,2,3,9のいずれか)」として、傷病名マスターに収録された傷病名との対応確度を格納する項目として用意されていました。しかしver.2.1以降、傷病名マスターとの連携が実現し、実際には全ての病名表記に対し、"1"が入力されていました。</p> <p>このように事実上不要となっていた項目であることから、今版Ver2.33以降、歯科分野との連携を進める上で、新たな意味の項目として使用することにしました。</p> <p>なおver2.33では、新たに追加された「病名表記」についてのみ、その主たる使用分野が歯科の場合に"4"が入力されています。前版Ver2.32で収録済みの「病名表記」については、その主たる使用分野が歯科である場合にも本項目は"1"のままとなっています。</p> <p>これらについては、次版以降順次更新する予定です。</p>
⑭	変更履歴番号	3				このレコードの変更履歴番号(200以上の整数)です
⑮	更新日付	8		*		このレコードに修正が最後に加わった日付をYYYYMMDDの形式で入力してあります 空欄は初期レコードのままを表します
⑯	移行先病名管理番号	8		*		この③「病名表記」が更新作業の結果無効となった場合、新たに対応すべき正しい③「病名表記」の②「病名管理番号」を入力してあります
⑰	単独使用禁止区分	2		*	*	この③「病名表記」を単独で利用することが適当かどうかの区分が入力されています 00=下記以外 01=修飾語との組合せが望ましいもの
⑱	保険請求外区分	1		*	*	この③「病名表記」を単独で利用した場合、保険請求外の扱いとなるかどうかを表す区分が入力されています 0=下記以外 1=保険請求対象外となるもの
⑲	ICD10-2013	5	*	*		③「病名表記」に付与されたICD-2013コードです *⑨「ICD10確度」がCxxのときには空欄です 具体的な例は下記⑨「ICD確度」をご覧ください
⑳	ICD10-2013 複数分類コード	5	*	*		③「病名表記」がICDの二重分類の対象、または補助分類などを用いてより具体的な情報をもたせることができる場合には、その第2コードが入力されています *二重分類の対象ではあっても適当なコードが無い場合には"X"(半角文字エックス)が入力されています

### 7.1.4.2 病名補助マスタ

財団法人医療情報システム開発センタ作成の『ICD10 対応電子カルテ用標準病名マスタ Ver2.53 平成 19 年 01 月』より転記

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
①	無効区分	1		*	空欄=有効 1 = このレコードは無効(メンテナンス情報用)
②	病名補助レコード管理番号	8			このテーブルのレコードを一意に識別するための管理番号
③	病名表記番号	8			病名基本テーブルの対応するレコードに関連づけるための病名表記番号。1対1対応。
④	病名表記	全角30文字	*		病名表記(全角文字列) 病名表記番号フィールドにより対応づけられているので本フィールドは不要であるが、便宜上用意されている。
⑤	類似病名コード	4		*	同一ではないが近い概念と考えられる複数の病名に対して、そのうちの任意の1病名の病名交換用コードが設定される。将来的な利用のために一部の病名について設定されており今後順次整備される。
⑥	接続修飾語区分コード	49	*	*	接続頻度の高い修飾語の区分コード(4桁)がセミコロンで区切って最大10個列挙される。将来的な利用のために一部の病名に設定されており、今後順次整備されていく。
⑦	病名コード正規化情報	94	*	*	病名表記が他の病名表記1個と9個以内の修飾語との合成により表現できる場合に、その修飾語コードおよび病名交換用コードを+記号で連結し、先頭に+記号をつけたもの。連結の順序は、病名交換用コードが最初で、そのあとに修飾語コードをコード文字列の昇順とする。そうでないときは空欄。
⑧	病名同義表記生成情報	全半角混在100文字	*	*	病名表記と同義の表記のゆれをコンピュータが自動生成するための使うことのできる情報。将来的な利用のために一部の病名に設定されており、今後順次整備されていく。展開された用語は索引テーブルにすでに存在するものもあるが、存在しないものもある。 (例:高血圧[症]、[前]額[部]打撲[[挫]傷]、胆[(囊,のう)結]石[症]などの表記)
⑨	修飾語階層項目リンク情報	9		*	修飾語階層関係テーブル中の階層項目区分と階層項目IDとをこの順に連結した9桁コード。 これが設定されている場合には、修飾語階層の特定の階層項目をこの病名に接続可能な修飾語群として関連づけて利用することができる。

7.1.4.3 修飾語テーブル

財団法人医療情報システム開発センタ作成の『ICD10 対応電子カルテ用標準病名マスタ Ver2.53 平成 19 年 01 月』より転記

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	新修飾語マスタとの対応有	説明
①	変更区分	1				レコード単位の更新状況を次の4つに分類しています。 0=前版と内容が同一の場合は"0"が入力されています(変更無し) 1=今版で削除が決まった場合は"1"が入力されています(削除) 3=今版で新たに追加された場合は"3"が入力されています(新規追加) 5=前版から内容が変更されている場合は"5"が入力されています(変更)  *本項目は②以下の情報の更新状況に関する情報を格納しています
②	修飾語管理番号	8			*	③「修飾語表記」に1対1で対応する一意の管理番号で、変わることはありません 更新情報の反映など、本テーブルの管理のために使うものです
③	修飾語表記	全角 20文字	*		*	本マスターで利用できる修飾語です 同一の「修飾語表記」は存在しません 注 本テーブルは削除となったレコードも物理的に削除せず、更新情報で対応しています したがって表現の統一などによって削除されたレコードと正規表現のレコードとが混在することになります 変更区分を含めると必ずユニークとなります
④	修飾語表記カナ	全角 30文字	*		*	③「修飾語表記」のカナ文字列です
⑤	修飾語交換用コード	9	*		*	他施設との情報交換を想定して設定されたコードです 同一の意味をもつ修飾語表記のグループに対して一意に設定されており、第2版内では変更されません  *本コードは現在4桁になっていますが、将来の拡張性を考えて9桁の可変長としています
⑥	接続位置区分	2				「修飾語表記」を「病名表記」に接続する際の接続位置を設定したコードです 具体的には (a)"10"以上の数字は「病名表記」の前におかれる (b)"9"以下の数字は「病名表記」の後におかれる ◎この数字が大きいほど前におかれる傾向が強い (d)同じ値同士は、⑤「修飾語交換用コード」が小さいほど前に置かれる  となるように設定してありますが、幾つか調整されていない組み合わせもありますので、大まかな目安としてお使い下さい



項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	新修飾語マスターとの対応有	説明
⑦	修飾語区分	8			*	診療報酬請求用の「新修飾語マスター」の収載項目と同一内容である。 ③「修飾語表記」を、その内容により分類しています。 現在は、前から2桁目に次の意味を持たせている。 *1*****: 部位(頭部、頸部等) *2*****: 位置(左、右等) *3*****: 病因(外傷性、感染性等) *4*****: 経過表現(急性、慢性等) *5*****: 状態表現(悪性、良性等) *6*****: 患者帰属(胎児、老人性等) *7*****: その他(高度、生理的等) *8*****: 接尾語 *9*****: 歯科用に予約(未収録)
⑧	排他グループコード	4			*	③「修飾語表記」のうち、背反する意味を持つために同時には使えない修飾語同士には同じ排他グループコードを持たせています ただし今版では多用が予想される一部の修飾語についてのみの設定となっています 例)修飾語表記の“急性”、“慢性”の「排他グループコード」には同じ“ACCT”が入力されており、同時には使えないようにすることができます
⑨	レセ電算修飾語コード	4			*	③「修飾語表記」に対応するレセ電算コードが入力されています
⑩	修飾語説明用ラベル	全角20文字		*	*	③「修飾語表記」の補足説明を入力するための項目で、今版では一部の修飾語に用いられています 例)修飾語表記「術後」の「説明用ラベル」には“~の術後状態(後置用)”が入力されています

#### 7.1.4.4 修飾語補助テーブル

財団法人医療情報システム開発センタ作成の『ICD10 対応電子カルテ用標準病名マスタ Ver2.53 平成 19 年 01 月』より転記

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
①	無効区分	1		*	空欄=有効 1 = このレコードは無効(メンテナンス情報用)
②	修飾語補助レコード管理番号	8			このテーブルのレコードを一意に識別するための管理番号
③	修飾語管理番号	8			修飾語テーブルの対応するレコードに関連づけるための修飾語管理番号。1対1対応。
④	修飾語表記	全角30文字		*	修飾語表記(全角文字列) 修飾語管理番号フィールドにより対応づけられているので本フィールドは不要であるが、便宜上用意されている。
⑤	修飾語コード正規化情報	94		*	修飾語表記が他の修飾語表記の合成により表現できる場合に、その修飾語コードを+記号で連結し、先頭に+記号をつけたもの。連結の順序は、修飾語コードをコード文字列の小さい順序とする。 そうでないときは空欄。

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
⑥	修飾語同義表記生成情報	全半角混在100文字	*	*	病名同義表記生成情報と同様の情報

#### 7.1.4.5 索引テーブル

財団法人医療情報システム開発センター作成の『ICD10 対応電子カルテ用標準病名マスタVer2.53 平成19年01月』より転記

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
①	索引用語	全半角混在50文字	*		<p>全角文字と半角文字が混在している、検索用の索引文字列です 検索しやすいように英数字は全て半角の大文字に統一してあります (半角の空白を含む場合もあります) 複数の用語に対応する索引用語がありますから、重複もあります この索引用語から②「対応用語コード」をもとに対応する「病名表記」、 「修飾語表記」を引くことができます</p>
②	対応用語コード	4			<p>①「索引用語」に対応する「病名表記」または「修飾語表記」のそれぞれの用語のコードが入力されています 病名と修飾語の組み合わせによって対応するものは含みません 例)「病名表記」「肝炎」を含む「病名表記」は、A型肝炎、ウイルス肝炎など たくさんありますが、それらには対応付けられていません</p> <p>対応する用語がない場合には、「0000」が設定されています 例)第1版に収録されていた「インソール」は、物質名であるとして第2版では 実質的には削除されています この場合はどの用語とも対応させていませんので「0000」が入力されています</p> <p>①「索引用語」と同様に重複があります 但し①「索引用語」と②「対応用語コード」の組み合わせでは重複はありません</p>
③	病名修飾語区分	1			<p>1=対応用語が「病名表記」の場合「1」が入力されています 2=対応用語が「修飾語表記」の場合「2」が入力されています</p>
④	か+漢字区分	1			<p>1=「病名表記」、「修飾語表記」の漢字文字列からの①「索引用語」である場合「1」が入力されています 2=「病名表記」、「修飾語表記」のか+文字列からの①「索引用語」である場合「2」が入力されています 9=その他の場合「9」が入力されています</p>
⑤	同義語区分	1			<p>0=①「索引用語」が、対応する「病名表記」または「修飾語表記」自体である場合は「0」が入力されています 1=①「索引用語」が、対応する「病名表記」または「修飾語表記」とほぼ同義である場合は「1」が入力されています 2=①「索引用語」が、対応する「病名表記」または「修飾語表記」の類義語である場合は「2」が入力されています 9=その他、または検索用に収録された部分文字列の場合は「9」が入力されています</p>

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
⑥	異字体区分	1			1=①「索引用語」が、誤字表記からの検索用文字列である場合は"1"が入力されています 2=①「索引用語」が、異字体表記からの検索用文字列である場合は"2"が入力されています 9=その他の場合は"9"が入力されています  異字体の取り扱い基準についてはp.16表1をご覧ください
⑦	第1版採用表記区分	1			1=①「索引用語」が、第1版の収載病名である場合は"1"が入力されています 9=その他の場合は"9"が入力されています
⑧	言語区分(将来用予約)	1			1=外国語表記の索引用語 2=日本語表記の索引用語
⑨	省略区分(将来用予約)	1			1=略語 9=略語以外

\*⑧,⑨項番については ver.2.x では未使用です。

#### 7.1.4.6 合成語 ICD 情報

合成語 ICD コードテーブル仕様案(2004/7/8)より転記

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
①	合成語管理番号	8			このテーブルのレコードを一意に識別するための管理番号。このテーブルを管理する目的で用意される。
②	合成語表記	全角50文字	*		合成語の表記
③	合成語連結表記	全角50文字プラス半角9文字	*	*	合成語が他の病名表記1個と9個以内の修飾語との合成により表現できる場合に、その修飾語および病名を+記号で連結し、先頭に+記号をつけたもの。連結の順序は、合成語表記の順に従う
④	合成語連結管理番号	90	*	*	合成語が他の病名表記1個と9個以内の修飾語との合成により表現できる場合に、その修飾語管理番号および病名管理番号を+記号で連結し、先頭に+記号をつけたもの。連結の順序は、合成語表記の順に従う。
⑤	正規化連結交換用コード	50	*	*	合成語が他の病名表記1個と9個以内の修飾語との合成により表現できる場合に、その修飾語コードおよび病名交換用コードを+記号で連結し、先頭に+記号をつけたもの。連結の順序は、病名交換用コードが最初で、そのあとに修飾語コードをコード文字列の昇順とする。(合成語連結管理番号の連結順とは異なるので注意)
⑥	病名部分 ICD10	6	*	*	合成語から修飾語を除いた病名部分の ICD10 コード
⑦	合成語 ICD10	6	*		合成語の ICD10 コード

### 7.1.4.7 代替 ICD 情報

#### 新規マスタ

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
①	ICD10	6	*		代替候補を定義するICD10コード
②	フラグ区分	1			0:予備 1:代替ICDを使用しなくても良い 2:代替ICDを使用すべき
③	ICD10代替コード	150	*		代替候補のICDを定義する。 複数定義する場合は、セミコロンで区切る。
④	メッセージ	300	*	*	補足情報のようなメッセージを付加したい場合にここに定義する。

### 7.1.4.8 ICD 見出し情報

#### 新規マスタ

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
①	区分	1			見出しの区分 1:章 2:大分類(ICD10範囲指定) 3:小分類(ICD10範囲指定) 4:見出し(ICD10指定)
②	章	2	*		このICD10が属する章
③	ICD10範囲開始	5			見出しのICD10コード開始 区分が「1, 2, 3および4」の場合、定義する。
④	ICD10範囲終了	5			見出しのICD10コード終了 区分が「1, 2および3」のとき、定義する。 区分が「4」の場合、定義しない。
⑤	ICD10見出し	全角200文字	*		ICD10コードに対する見出し、または章の見出し
⑥	ICD105桁目フラグ	1			区分が「3:小分類」のときのみ意味を持つ 区分が上記以外、および5桁目が存在しないときはブランクが設定される。 0:予備 1:細分類グループ-1 2:細分類グループ-2 3:細分類グループ-3 4:細分類グループ-4 5:細分類グループ-5 6:細分類グループ-6 7:細分類グループ-7 8:細分類グループ-8 9:細分類グループ-9

### 7.1.4.9 ICD5 析目情報

#### 新規マスタ

ICD 見出し情報マスタの『細分類グループ + ".html"』形式でファイルが定義される。

例)細分類グループ="2"の場合、「2.html」

### 7.1.4.10 ICD 見出し情報 (ICD10-2013)

#### 新規マスタ

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
①	区分	1			見出しの区分 1:章 2:大分類(ICD10範囲指定) 3:小分類(ICD10範囲指定) 4:見出し(ICD10指定)
②	章	2	*		このICD10-2013が属する章
③	ICD10範囲開始	5			見出しのICD10-2013コード開始 区分が「1, 2, 3および4」の場合、定義する。
④	ICD10範囲終了	5			見出しのICD10-2013コード終了 区分が「1, 2および3」のとき、定義する。 区分が「4」の場合、定義しない。
⑤	ICD10見出し	全角200 文字	*		ICD10-2013コードに対する見出し、または章の見出し
⑥	ICD105析目フラグ	1			区分が「3:小分類」のときのみ意味を持つ 区分が上記以外、および5桁目が存在しないときはブランクが設定される。 0:予備 1:細分類グループ-1 2:細分類グループ-2 3:細分類グループ-3 4:細分類グループ-4 5:細分類グループ-5 6:細分類グループ-6 7:細分類グループ-7 8:細分類グループ-8 9:細分類グループ-9

#### 7.1.4.11 ICD5 析目情報 (ICD10-2013)

##### 新規マスタ

ICD 見出し情報マスタの『細分類グループ + ".html"』形式でファイルが定義される。

例)細分類グループ="2"の場合、「2.html」

#### 7.1.4.12 非標準病名 ICD(ユーザ定義)

##### 新規マスタ

このマスタは個々のユーザ自身がメンテナンスを行う。

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
①	病名表記	全角30文字	*		ユーザ自身が定義した傷病名
②	ICD10	6	*	*	病名表記に対応するICD10コード

#### 7.1.4.13 異体字辞書

##### 新規マスタ

このマスタは定期的にメンテナンスされる

項番	フィールド名	最大長	可変長	空欄あり	説明
①	変換前文字	可変長	*		変換元の文字列
②	変換後文字	可変長	*		変換後の文字列

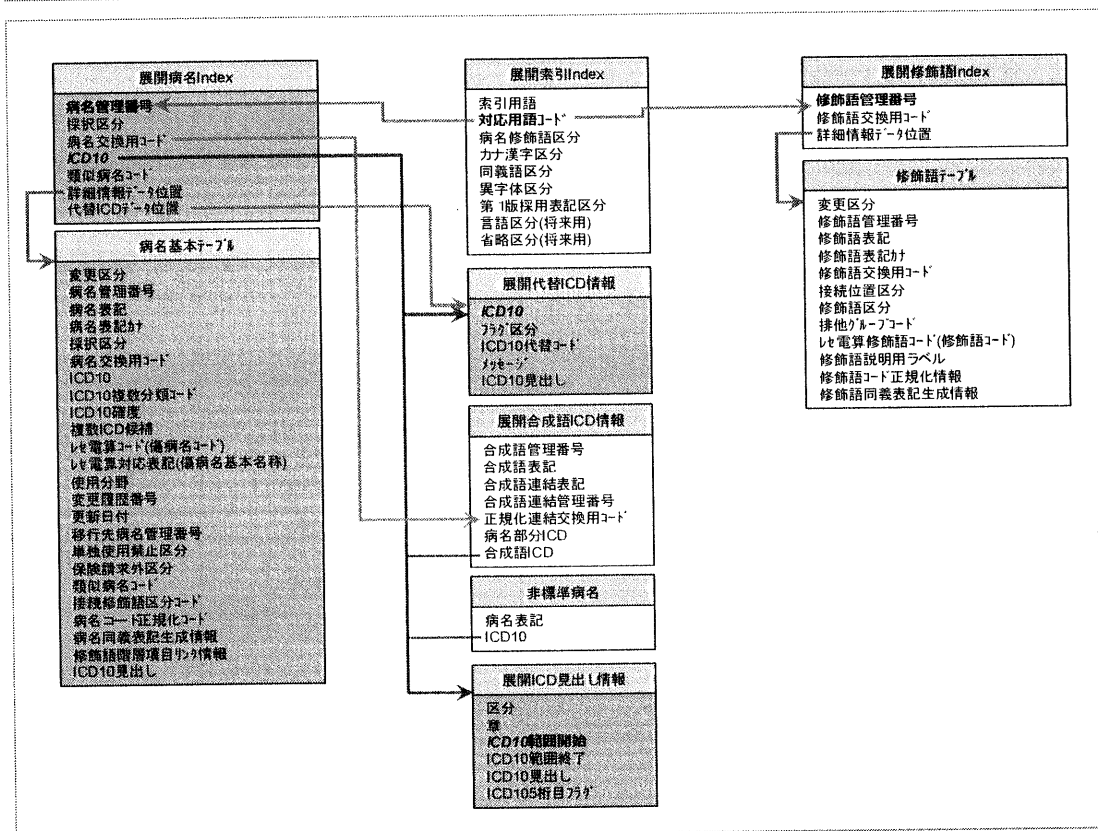
## 7.2. 展開済みマスタ

### 7.2.1. 展開済みマスタ一覧

※背景がグレーのものは今回対象外または使用しないもの

	使用	展開済みマスタ	ICD10 詳細	傷病名 検索	ICD10 支援				修飾語 検索
		展開元マスタ			①	②	③	④	
1	○	展開病名 Index	○	○	○	○	○	○	
		病名基本テーブル							
		病名補助テーブル							
2	○	展開病名詳細	○	○		○	○		
		病名基本テーブル							
		病名補助テーブル							
3	○	展開修飾語 Index							○
		修飾語テーブル							
		修飾語補助テーブル							
4	○	展開修飾語詳細							○
		修飾語基本テーブル							
		修飾語補助テーブル							
5	○	展開索引 Index		○					○
		索引テーブル							
		病名基本テーブル							
		病名補助テーブル							
		修飾語テーブル							
修飾語補助テーブル									
6	○	展開合成語 ICD 情報	○	○				○	
		合成語 ICD コードテーブル							
7	○	展開代替 ICD10 情報			○				
		可変長⇒固定長変換のみ 代替 ICD 情報							
8	○	展開しないでそのまま使用	○	○					
		非標準病名 ICD テーブル							
9	○	展開 ICD 見出し情報					○		
		可変長⇒固定長変換のみ ICD 見出し情報							
10	○	展開しないでそのまま使用					○		
		ICD5 桁目情報(ICD 見出し情 報補助情報)							
11	○	展開しないでそのまま使用		○					○
		異体字辞書							
12	×	類似病名							
		病名基本テーブル 病名補助テーブル							

### 7.2.2. 展開済みマスタ構成





### 7.2.3. 展開済みマスタ詳細

展開済みマスタはバイナリ形式のテキストファイルで提供する。各フィールドは固定長とする。

規定の固定長サイズ(byte)に満たない場合は、既定の固定長サイズになるように半角スペースを用いて埋める。

ただし、以下のファイルの 1 行目はバージョン情報をセットする。(固定長 100byte)

- ・ 展開病名 Index
- ・ 展開病名詳細
- ・ 展開修飾語 Index
- ・ 展開修飾語詳細
- ・ 展開索引 Index
- ・ 展開代替 ICD 情報
- ・ 展開合成語 ICD 情報
- ・ 展開 ICD 見出し

#### 7.2.3.1 展開病名 Index

項番	フィールド名	サイズ	説明
1	病名管理番号	8	病名表記に対して一意に振られた管理番号 『病名基本テーブル.病名管理番号』
2	採択区分	1	病名表記に対する採択区分 『病名基本テーブル.採択区分』
3	病名交換用コード	4	病名表記に対する病名交換用コード 『病名基本テーブル.病名交換用コード』
4	ICD10	5	病名表記に対する ICD10 コード 『病名基本テーブル.ICD10』
5	ICD10-2013	5	病名表記に対する ICD10-2013 コード 『病名基本テーブル.ICD10-2013』
6	類似病名コード	4	病名表記に対する類似病名コード(病名交換用コード) 『病名補助テーブル.類似病名コード』
7	詳細情報データ位置	15	病名表記に対する詳細情報のデータ位置
8	代替 ICD データ位置	15	病名表記に対する代替 ICD 情報のデータ位置

#### 7.2.3.2 展開病名詳細

項番	フィールド名	サイズ	説明
1	変更区分	1	『病名基本テーブル.変更区分』
2	病名管理番号	8	『病名基本テーブル.病名管理番号』
3	病名表記	120	『病名基本テーブル.病名表記』
4	病名表記カナ	200	『病名基本テーブル.病名表記カナ』
5	採択区分	1	『病名基本テーブル.採択区分』
6	病名交換用コード	4	『病名基本テーブル.病名交換用コード』

項番	フィールド名	サイズ	説明
7	ICD10	5	『病名基本テーブル.ICD10』
8	ICD10 複数分類コード	5	『病名基本テーブル.ICD10 複数分類コード』
9	ICD10 確度	3	『病名基本テーブル.ICD10 確度』
10	複数 ICD 候補	150	『病名基本テーブル.複数 ICD 候補』
11	レセ電算コード	33	『病名基本テーブル.レセ電算コード』
12	レセ電算対応表記	120	『病名基本テーブル.レセ電算対応表記』
13	使用分野	1	『病名基本テーブル.使用分野』
14	変更履歴番号	3	『病名基本テーブル.変更履歴番号』
15	更新日付	8	『病名基本テーブル.更新日付』
16	移行先病名管理番号	8	『病名基本テーブル.移行先病名管理番号』
17	単独使用禁止区分	2	『病名基本テーブル.単独使用禁止区分』
18	保険請求外区分	1	『病名基本テーブル.保険請求外区分』
19	ICD10-2013	5	『病名基本テーブル.ICD10-2013』
20	ICD10-2013 複数分類コード	5	『病名基本テーブル.ICD10-2013 複数分類コード』
21	類似病名コード	4	『病名補助テーブル.類似病名コード』
22	接続修飾語区分コード	49	『病名補助テーブル.接続修飾語区分コード』
23	病名コード正規化コード	94	『病名補助テーブル.病名コード正規化コード』
24	病名同義表記生成情報	400	『病名補助テーブル.病名同義表記生成情報』
25	修飾語階層項目リンク情報	9	『病名補助テーブル.修飾語階層項目リンク情報』
26	ICD10 見出し	400	『ICD10 見出し.ICD10 見出し』

### 7.2.3.3 展開修飾語 Index

項番	フィールド名	サイズ	説明
1	修飾語管理番号	8	『修飾語テーブル.修飾語管理番号』
2	修飾語交換用コード	9	『修飾語テーブル.修飾語交換用コード』
3	詳細情報データ位置	15	修飾語表記に対する詳細情報のデータ位置

### 7.2.3.4 展開修飾語詳細

項番	フィールド名	サイズ	説明
1	変更区分	1	『修飾語テーブル.変更区分』
2	修飾語管理番号	8	『修飾語テーブル.修飾語管理番号』
3	修飾語表記	80	『修飾語テーブル.修飾語表記』
4	修飾語表記カナ	120	『修飾語テーブル.修飾語表記カナ』
5	修飾語交換用コード	9	『修飾語テーブル.修飾語交換用コード』
6	接続位置区分	2	『修飾語テーブル.接続位置区分』
7	修飾語区分	8	『修飾語テーブル.修飾語区分』
8	排他グループコード	4	『修飾語テーブル.排他グループコード』
9	レセ電算修飾語コード	4	『修飾語テーブル.レセ電算修飾語コード』
10	修飾語説明ラベル	80	『修飾語テーブル.修飾語説明ラベル』
11	修飾語コード正規化情報	94	『修飾語テーブル.修飾語コード正規化情報』
12	修飾語同義表記生成情報	400	『修飾語テーブル.修飾語同義表記生成情報』

### 7.2.3.5 展開索引 Index

項番	フィールド名	サイズ	説明
1	索引用語	200	『索引テーブル.索引用語』
2	対応用語コード	4	『索引テーブル.対応用語コード』
3	病名修飾語区分	1	『索引テーブル.病名修飾語区分』
4	か漢字区分	1	『索引テーブル.か漢字区分』
5	同義語区分	1	『索引テーブル.同義語区分』
6	異体字区分	1	『索引テーブル.異体字区分』
7	第 1 版採用表記区分	1	『索引テーブル.第 1 版採用表記区分』
8	言語区分	1	『索引テーブル.言語区分』
9	省略区分	1	『索引テーブル.省略区分』

### 7.2.3.6 展開代替 ICD10 情報

項番	フィールド名	サイズ	説明
1	ICD10	6	『代替 ICD10 情報.ICD10』
2	フラグ区分	1	『代替 ICD10 情報.フラグ区分』
3	ICD10代替コード	150	『代替 ICD10 情報.ICD10 代替コード』
4	メッセージ	300	『代替 ICD10 情報.メッセージ』
5	ICD10見出し	400	『ICD10 見出し.ICD10 見出し』

### 7.2.3.7 展開合成語 ICD10 情報

項番	フィールド名	サイズ	説明
1	合成語管理番号	8	『合成語 ICD 情報.合成語管理番号』
2	合成語表記	200	『合成語 ICD 情報.合成語表記』
3	合成語連結表記	209	『合成語 ICD 情報.合成語連結表記』
4	合成語連結管理番号	90	『合成語 ICD 情報.合成語連結管理番号』
5	正規化連結交換用コード	50	『合成語 ICD 情報.正規化連結交換用コード』
6	病名部分ICD10	6	『合成語 ICD 情報.病名部分 ICD10』
7	合成語ICD10	6	『合成語 ICD 情報.合成語 ICD10』
8	合成語ICD10見出し	400	『ICD10 見出し. ICD10 見出し』

### 7.2.3.8 非標準病名

オリジナルマスタをそのまま利用する。

### 7.2.3.9 展開 ICD 見出し

可変長データから固定長データへ変換を行う。データ構造は ICD 見出しと同一  
ICD10 見出しと ICD10-2013 見出しは同じデータ構造となる。

#### 7.2.3.10 ICD10 5 桁目情報

---

オリジナルマスタをそのまま利用する。

ICD10 コード 5 桁目と ICD10-2013 コード 5 桁目情報は同じデータ構造となる。

#### 7.2.3.11 異体字辞書

---

オリジナルマスタをそのまま利用する。